

提出された意見書 に対する市の対応

外部検討委員会

令和3年11月8日
市長宛て提出

現庁舎の耐震化に対する意見書

市長コメント

外部検討委員会の鯨坂委員長から意見書を受け取った市長は「重く受け止めている。議会での議論を踏まえ、できるだけ早く結論を出したい」とコメントしました。

また、意見書については、11月19日に開催された庁舎整備検討特別委員会において、市議会に報告されました。

垂水市庁舎等の今後の在り方について

- 外部検討委員会で令和3年5月から議論されてきた現庁舎の耐震化について、今回「市民や職員の安全確保の観点からも、一刻も早い耐震補強が望まれます」との意見書が出されました。外部検討委員会からの意見書については重く受け止め、市議会の議論を踏まえ、現庁舎の耐震補強について判断していくこととしています。
- また、意見書の内容を踏まえ、リノベーションや新庁舎建設については、今後引き続き外部検討委員会において検討を進めてまいります。

外部検討委員紹介（垂水市庁舎等のあり方検討委員会）

委員の皆様の活発な意見交換のもと意見書を作成していただきました。委員の皆様、ありがとうございました。

学識経験者（5名）

鯨坂 徹／鹿児島大学大学院理工学研究科教授
片野田 拓洋／鹿児島大学法文学部准教授
川井田 守／鹿児島県建築士会垂水支部代表
村野 剛／防災士
馬籠 良英／東京都建築士事務所協会本部理事
一級建築士

市内公共的団体代表（10名）

橋口 敬二／垂水市地区公民館連絡協議会
嶽釜 静男／垂水市振興会長連絡協議会
中村 美穂子／垂水市民生委員協議会
森下 茜／垂水市PTA連絡協議会
前田 洋平／垂水市商工会
後迫タツエ／垂水市商工会

山口 勇／垂水金融クラブ

黒川 徹／垂水市子ども・子育て会議
川畑 安正／垂水市消防団正副分団長会議
寺田 里美／垂水市社会福祉協議会

公募委員（5名）

中馬 吉昭 大迫 清美 宮下 直弥
市渡 しのぶ 石堂 友美

現庁舎の耐震化について

現庁舎については、前委員会の提言を踏まえ、今後、リノベーションや新庁舎建設の議論は継続して進める必要がありますが、市民や職員の安全確保の観点からも、一刻も早い耐震補強が望まれます。なお、耐震補強については、できるだけ外観を損なわない耐震工法を選択されることを望みます。

理由

- 現庁舎は耐震診断の結果、新耐震基準を満たしておらず、大地震動により建物が倒壊する危険性があると評価されているが、建築の専門家から、耐力を満たさない部分の補強を行うことで、新耐震基準を満たす建物にすることは可能であると見解が示されたこと。
- 現庁舎の耐震補強については、現庁舎が持つ文化的価値及び環境負荷の低減といった観点から建物外観をできるだけ現状に近い形で保存できるようにといった意見、一方で、耐震補強を優先した上で今後、コストや利便性、バリアフリーへの対応についても十分に配慮すべきといった意見があったことから、耐震補強計画の手戻りがないよう引き続き今後、十分な検討が必要であるとされたこと。
- 新庁舎の建替には、最短でも10年以上かかるの見込まれ、その間、現庁舎を耐震補強せずにそのまま使い続けることは社会通念上問題があると意見の一致をみたこと。
- 多くの委員が、第一に考えなければならないこととして、「利用する市民及び職員の安全確保」であるとしていること。

その他意見について

- 市財政への影響を考慮し、可能な限り、国の補助制度を活用してほしい。
- 消防庁舎についても、現庁舎と同様の考え方で進めていただきたい。
- 市民への情報提供については、市民が正しく理解できるよう努めていただきたい。